

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024 年度 第 4 回 国際交流委員会
議事録

日 時：2025 年 2 月 14 日(金) 15:00～16:00 開催

開催場所：兵庫国際交流会館 1F Nadacom Station

委 員 校：兵庫県立大学(委員長校)、神戸市外国語大学(副委員長校)

明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、
関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、
神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、
神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、流通科学大学
(計 27 校)

欠 席 校：大手前大学、大手前短期大学、関西福祉大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護
大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、芸術文化観光専門職
大学、流通科学大学
(計 12 校)

I. 審議事項

1. 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について (資料 1)

1) 【取組 1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業

災害時の外国人コミュニケーションツール「BOSAI コミュニケーションカード(仮)」の開発とフェーズ
フリーな活用の提案について

2) 【取組 2】加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業

①学生海外派遣プログラム

②事業年度内に加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム

II. 懇談事項

1. 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2025 年兵庫県開催) 学生ステージについて (資料 2)

III. 連絡・調整事項

1. 2024 年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について

第 5 回委員会 3 月:2024 年度 事業報告・決算(案)

以上

<資料一覧>

資料 1-1:【理事長名依頼状】2025 年度事業計画・予算(案)及び 2024 年度事業報告・決算(案)の作成依頼

資料 1-2①: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について 取組 1

資料 1-2②: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について 取組 2

資料 1-2③:「BOSAI コミュニケーションカード(仮)」の開発 企画概要

資料 1-3①: 2025 年度国際交流委員会 事業計画(案)

資料 1-3②: 2024 年度学生派遣プログラム実施報告_神戸常盤大学

資料 1-4: 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)

資料 2: 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2025 年兵庫県開催)について

(参考資料 1) 2024 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

I. 審議事項

1. 2025 年度国際交流委員会 事業計画・予算(案)について

(資料 1)

1) 【取組 1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業

慈事務局員より資料 1-2①に基づいて【取組 1】「兵庫国際交流会館における国際交流拠点事業」について説明があり、原案どおり承認された。

なお、神戸学院大学 足利様より資料 1-2③に基づいて、2025 年度事業のご提案および事業内容説明があった。これに対し、以下のご質問・ご意見があった。

<主な意見>

- ・神戸市外国語大学 国際交流センター長 金子副委員長：

紙媒体を想定した「防災カード」であれば、学生の携帯は難しい。災害時のリスクマネジメントとして留学生とのネットワークはあるのか。各校単位だと少数派の国籍の留学生等の対応が難しい。コンソ加盟校間で協力し、もれなく留学生に情報が伝わるような配慮が必要。

本事業を進める過程で、留学生だけでなく、留学生を取り巻くコミュニティの協力が不可欠である。周囲の日本人学生や企業等にも同時に浸透させることが重要ではないか。

- ・神戸女学院大学 高地国際交流センター課長

前出の意見と同様、カードの携帯よりスマホのアプリなどのほうが現実的ではないか。予算では、イベントや講演会の費用がメイン思われる。開発費の類の予算が必要ではないか？制作過程の使用言語により、留学生の理解度、周知に差が出ないか。

各校で特定の企業や自治体の提供する危機管理サービスを導入している中、取ってカードを携帯することの違い、メリットはなにか。防災に取り組む他機関との連携が多く存在する中で、本事業はそれを集約するものなのか。本事業は大変有益で期待が大きい。関連するイベントの情報周知や成果報告、成果物の共有などは加盟校間で是非活発に行いたい。カードが加盟校に配布されると良い。

- ・明石工業高等専門学校 水野グローバルエデュケーションセンター長

前出の意見と同様、カードの携帯よりスマホのアプリなどのほうが現実的ではないか。全国の先行事例を調査し、参考にして欲しい。事業年度を超えても継続できるよう、早い段階から企業を巻き込んで進めたほうが良い。

<主な意見に対する回答>

- ・神戸学院大学 足利国際交流支援グループ長

「開発費」は、今後のワークショップを経て方向性を定めていく。講師の説明言語は、日本語と思われる。留学生への伝達は今後検討する。物理的なカードを携帯する利点は、災害時の通信の断絶や水没による機器の破損などに対し、カードならどんな状況でも使えるという利点や避難中・避難所内のパニック状況の中で使いやすいから。

- ・大学コンソーシアムひょうご神戸 山崎事務局長

言語の問題は、これまでの JASSO 受託事業同様、日本人学生や留学生の力も借りながら進めていく。その他の機関との連携には JICA、HIA との協定や県との連携がある。様々な機関で同様の取組がある中で、連携機関で協力してこの事業を進めていく。本事業が各所での取組を集約するものではないが、既存の連携機関、自治体や経済団体の意見も入れながら進めたい。

2) 【取組 2】加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業

①学生海外派遣プログラム

慈事務局員より資料 1-2①に基づいて、学生海外派遣プログラムについて説明があった。

神戸常盤大学 学生支援課 課長補佐 青木様より資料 1-3②に基づいて、学生海外派遣プログラムについて説明があった。

②事業年度内に加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム

慈事務局員より資料 1-3①、1-2①に基づいて、事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交

流プログラムについて説明があった。

鈴木次長より資料 1-4 に基づき取組 1、2 の予算案が提示された。

以上の説明をもって原案どおり承認された。

慈事務局員より 2024 年度の「加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業」について、現状説明があった。
加盟校各位に対し 2025 年度のプログラム提供依頼があった。

II. 懇談事項

1. 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025 年兵庫県開催）学生ステージについて（資料 2）

山本事務局員より資料 2 に基づいて、概要の説明があった。

これに対し、以下の質問・意見があった

<主な意見>

神戸市外国語大学 国際交流センター長 金子副委員長

参加可能な留学生がいる場合は、所属大学に依頼がくるのか、出し物のコンセプト決定後に加盟校間で参加者を募るのか。学生ステージだけに国際交流委員会が関わっているのか、それともシンポジウム全体的に国際性がテーマなのか。

明石工業高等専門学校 水野グローバルエデュケーションセンター長

学生ステージ前後にある「シンポジウム」は出し物の内容と関係があるのか。どういう内容のものか。

国際性をうたっているコンソーシアムは少ないのか。

<主な意見に対する回答>

鈴木次長

大学単位か加盟校の学生混合グループでの参加かは未定。シンポジウムは、大学関係者の皆様に向けたもので、情報交換や事例紹介の場。コンソーシアムとは何か、を広く知って頂く場。

山崎事務局長

国際性をうたっているコンソーシアムは他にもあるが、ひょうごコンソに依頼が入った経緯として、留学生支援に特化した事業が一定の成果を出していることがある。国際性をシンポジウム全体のテーマとしているわけではない。

III. 連絡・調整事項

1. 2024 年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について

事務局より第 5 回委員会開催予定と主な議題について、メール審議とする旨の案内があった。

以上をもって、第 4 回国際交流委員会の議事は終了した。